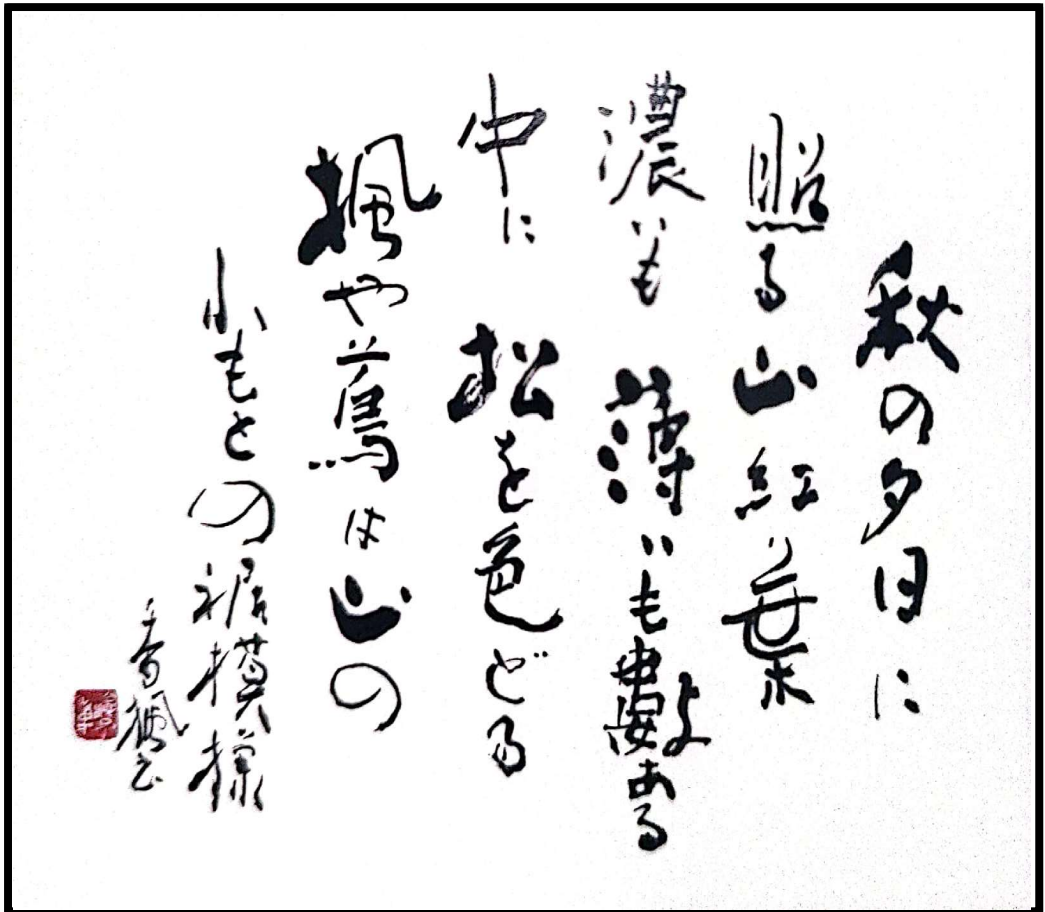


# 婦人会報

令和四年  
立教185年 11月 2022年



# 祝いのことば

本日は、天理教婦人会旭日支部第88回総会を開催され、まことにおめでとうございます。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症による影響は、世界中の人たちの生活に大きな影響を与えました。そんな中でも、教祖の教えを芯に、婦人会員が一手一つにお通りくださいましたことを、心よりお礼申し上げます。

この、難儀ともいえる日々は、今まで当たり前であったことのありがたさが身に染みる日々でもありました。日常の動きが戻りつつある今、改めて、

「ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう」との成人目標を掲げる、私たち婦人会員の歩み方を考えてみたいと思います。

婦人会長様は、第104回総会の席上、

「教祖のひながたをたどることの一つは、教祖の人を育てる上での心配り、なさり方をお手本として実行することです。」と述べられました。

教祖はどこまでも、ようきぐらしができるようすべてのこともをたすけたい、との親心から、教えを伝え、人をお育てになりました。その中で教組は、どんな心の使い方を教えてくださっ



たのか。教えを広め、人を育てる時にはどんな言葉や態度で導かれたのか。

私たちは、日々起こってくる様々なことに向き合う時、そこに思案の基を求めたいと思います。そのためには、自ら学び、そして婦人会員お互いで話しあい、教え合いながら、日々の暮らしの中で実行していくことが大切です。

今年も、活動方針は「元をたずねご恩報じの日々を」と掲げ、活動の具体的な項目は、支部で定めて実行することをお願いしています。

婦人会長様は、「まだ教えを知らない多くの人に教えを伝え広めることが、私たちのご恩報じである」、また、「共に道の台として歩んでくださる婦人会員を一人でも多くご守護いただこう」といつもお話しくださいます。

10月26日の秋季大祭では、教祖百四十年祭を目指す心の指針として、真柱様より諭達第四号を御発布頂きました。

陽気ぐらし世界実現という大きな目標に向かって、教祖のひながたを頼りに、自分にできることを一步一步積み重ねてくださることをお願いして、祝辞とさせて頂きます。

立教185年10月30日

天理教婦人会本部

(原文まま)



天理教婦人会  
旭日支部  
第88回総会

R185.10.30

# 支部長挨拶

(一部抜粋)



本日は親神様、教祖の御守護を頂戴し、こんな素敵な秋晴れのもと、婦人会本部よりご祝辞を頂戴いたしました。婦人会旭日支部第88回総会を開催することができましたことを大変ありがたく、嬉しく思っております。また、今回は前支部長の静子奥様をはじめ、前委員長様方にもご出席を賜り、誠にありがとうございます。

会員の皆様方には、四年ぶりとなります。婦人会旭日支部総会にお忙しい中、出にくい中をご参加く

ださしまして、誠にありがとうございます。日頃のお力添えに高いところからではございますが、御礼申し上げます。

昨年はコロナ禍ということで、参加を委員長に限らせていただき、開催いたしました。今回は、会員の皆様にもご参加いただき、共々におつとめを勤めさせていただき、嬉しく思っております。

先ほどは、この総会を始めるにあたり、最初に大教会長様よりご

祝辞を頂戴いたしました。ご本部検定講習に講師として出向される前の貴重な時間を割いて、祝辞を頂戴いたしました。みかぐらうたを紐解き、おつとめの大切さをお聞かせいただきました。そのお話をいただいで、おつとめ十二下りのをどりまなびを勇んで勤めさせていただきました。

新型コロナウイルスの感染拡大が叫ばれるようになってから、社会全体として、様々な活動、行動

に制限がかかりました。教会の月次祭をはじめ、各会の活動も制限された二年間を経て、やっと今年には社会全体が感染対策をとつての行事や集まりができるようになってきたところです。この三年で、私たちの日常も大きく変わりました。検温、手指消毒、換気、ソーシャルディスタンス、マスク着用など感染対策をし、家では手洗い・うがいを心掛ける新しい日常です。

今日もその対策を講じての開催です。まだ、完全に収まっている状況ではございませんが、ウィズコロナとして、社会が変わってきている状況です。このコロナ禍で一番怖かったのは何かというと、最初の頃どんな感染症か分からない

いという故の人の目、世間からの疑心暗鬼な心からくる、助け合いとはかけ離れた感情や 雰囲気の変化の姿、たつたように思います。

コロナ禍の混乱した社会で大変な時期、皆様はどのように過ごされていたでしょうか。世界中における新型コロナウイルス感染拡大のニュース。それに伴う、経済の悪化や社会状況の混乱、そしてロシアの ウクライナ侵攻をはじめとした争い事や思想、民族の弾圧など、世界中のニュースを見聞きしては、心沈む、心苦しくなる日々が続いたのではないのでしょうか。



私は、このコロナ禍で改めておつとめによる祈りの大切さ、ありがたさに気づくことができました。

大教会では、三年前の最初に緊急事態宣言が発令された時でも、いつもの時間に神殿で、朝夕のおつとめを勤めることができ、毎月の月次祭もいつも通り勤めることができました。どこからもクレームが来なかったことは、ありがたいうことでした。朝には、自分を含め、みんな元気に顔を揃えられる喜び。夕づとめでは、無事に一日、お連れ通りいただけただけありがたさを、より一層感じることができ、感謝と喜びの心が、私自身のなんとも言えない心のざわつきを鎮め



てくれました。そして、おつとめによつて、コロナの収束や世界の争いが収まることを願い、悩み苦しんでいる方のたすかりを祈ることができたのもありがたいことでした。

病院に入院されている方の元には、まだ今も面会に行くことは困難で、直接おさづけを取り次ぐことはできにくい状況ですが、身上了すかりを祈り、そしてご存命の教祖の息がかかった御供を届けることはできません。御供には、教祖の人間たすけたい、たすかつてほしいというお心が詰まっています。また、教祖のお召し下ろしの赤衣でできた御守りもいただくことが

できます。いつでも、どんな状況でも、教祖は私たちをたすける手だてを教えてくださいださっているのだなど、改めて親心に感動いたしました。

婦人会では成人目標として、

「ひながたをたどり、陽気ぐらしの台となりましょう」と掲げています。そして、「元をたすねご恩報じの日々を」との活動方針のもと、旭日支部では実行項目として、

- 一、真剣におつとめをつとめ世界のたすかりを祈りましょう
- 一、教えを学びましょう
- 一、今、自分にできるひのきしんをしましょう

の三つを掲げて、年の初めから歩んでいます。この三つは、大勢で集まらなくても、自分が心がければ、実行できることです。おつとめをつとめ、心のほこりを払い、心を澄ましますと、親神様の温かい親心に触れるように思います。そして、ひのきしんをしていく中に、フツフツと心が勇んでまいります。人のたすかりを祈る中、世のため、人のために何かさせていただく、その自分も心温まり、勇んでくる



というたすかりの姿をいただくのだと思います。

「人たすけたらわがみたすかる」と聞かせていただきますが、その通りだと思わせていただきます。

コロナ禍によって、何が大切なのか、私たちが目指している世界、社会とはどういうものなのかを考えさせられたと思います。婦人会の活動方針に「元をたすね」とあります。その「元」とは、親神様がこの世と人間をお創りくださった元の思いを指しています。

私たちは、陽気ぐらしをするために、この世に生まれてきました。世界中の人間は、親神様の子ども

であり、親を同じくする兄弟姉妹であります。陽気ぐらしとは、互いにたすけ合って、明るく楽しく暮らすことを言います。私たちの魂は、元々陽気ぐらしができる魂を持っていて、神様に素直で、神様の思いに沿って、人をたすける喜びに、勇む生き方、人に優しい、明るい生き方ができる性質を持っていると聞かせていただきます。

親神様は、陽気ぐらしができるよう、この世に様々なご守護や御恵みをお与えくださっています。私たちの身体も陽気ぐらしをするため、たすけ合うためにお借りしています。この世の全てが神様のものです、私たちは身体だけでなく、

ありとあらゆるものをお借りして生きています。  
おふでさきに、

だん／＼となに事にてもこのよふわ神のからだやしやんしてみよ

③-40

にんけんハみな／＼神のかしもやなんとをもふてつこているやら

③-41

人間というものは、身はかりもの、心一つが我がもの  
(明22・2・14)  
とおさしづにもございます。

かしものかりものが胸に治まれば、日々のご守護への感謝、ほこりを払い、心を磨くことの重要性も分かっています。陽気ぐらしへの道



については、この後、記念講演で詳しく聞かせていただきますので、しっかりと心に治めさせていただきましよう。

心を磨いていく旬、成人をしていく旬として、節目というものがあります。旭日につながる私たちにとりましては、その節目として、令和七年に旭日大教会創立百三周年を迎える節目があり、真柱様、奥様、大亮様、布恵様のご臨席を賜り、六月一日に記念祭を執り行うことが決まりました。先人方がたすけの道場たる教会につながり、教えを学び、おつとめを勤め、ひのきしんに励まれ、世のため、人のため、道の発展のために尽くさ

れた歴史の積み重ねの年限であり、今も世界中のたすかりを祈り、それぞれの心の成人を目指して教会につながるお互いです。

そして、次の年の令和八年一月には教祖百四十年祭が執行されます。年祭に向けてのご諭達が、今月二十六日に真柱様よりご発布されましたように、いよいよ年祭活動が始まります。その年祭活動の中に、旭日の記念祭が入ってきますので、私たちが「教祖、教祖」と一層お慕いし、教祖の望まれている日々を意識して歩む旬だと思わせていただきます。教祖が望まれていること、それはひとえに世界中の人をたすけ上げたいという

ことだと思えます。  
おふでさきに、



にち／＼にをやのしやんとゆうものはたすけるもよふばかりをもてる 14-35  
とあります。そして、そのために五十年のひながたを通してたすけ一条の道をつけられ、つとめとさづけをお教えくださったのです。よろづたすけの手立てとして、おつとめを教えていただいたお互いが御教え通り、しっかりと習得し、そして一人でも多くの方へ素晴らしい教えを伝えていく努力をした



いと思います。その上から記念祭へ向けての歩みの一つとして、おつとめのてをどり、鳴物の勉強をそれぞれ教会で積み重ねて、その成果を決起大会として、令和六年に開催する運びとなっております。

お手直しや鳴物の習得を通して、自分自身の癖、性分を直し、神様に合わす心、一手一つにたすけあう心に修正していき、みかぐらうたを味わい、親神様の人間かわい、世界たすけたい思いを心に治め、そして親神様によって自分に与えられた神の用向き、自らの役割、使命を自覚して、心の成人に励むのが、この度の記念祭と年祭の歩みだと思っています。心の成人とは、本来備わっている陽気ぐらし

の性質をだんだん磨き出すことだと聞かせていただきます。旭日支部で掲げている三つの項目を今後コロナ禍にあっても実行すれば、それは成人の道につながってくると思います。そして、大教会の周年、その後の教祖年祭に向かう、

只今の旬には、自分の身の回りの方々への働きかけをし、一緒に信仰を深めていく仲間が増えたなら、どんなに頼もしい道になることでしょう。お互いコロナ禍でも、元気にこうして置いていただける喜びを胸に、それぞれが与えられた環境で、自分にできる役割をしっかりとつとめさせていただきます。そして、記念祭には、教祖の名代としてお越しくださる真柱様

に、私たちが十年前より成人した姿をご覧いただきお喜びいただけよう、お互い励まし合って、勇んで歩ませていただきます。



今日は本当にこうして、会員の皆様を迎えて総会ができ、胸がいっぱいでございます。また今回は八十八回という回数を積み重ねての総会です。八という数字は、末広りの数字で、縁起が良いと聞かせていただきます。今日のこの八十八回の総会を機に、一人でも多くの方がこの道に繋がっていくという末広がりの姿をご守護いただけるよう、共々に勇んで歩ませていただきます。



# 婦人会旭日支部第88回総会開催

去る10月30日(日)、婦人会旭日支部第88回総会を開催いたしました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各教会の会員を代表して委員部長のみでの開催でしたが、本年は感染予防対策のもと、4年ぶりに大勢の会員の皆様のご参加を頂き、開催することができました。当日は、秋晴れの清々しいお天気のご守護に恵まれ、皆心勇んで一手一つに、世界のたすかりを願っておつとめまなびをつとめさせていただきました。

式典後は、事情部講師、基礎講座講師を務められ、天理時報特別号「人間いきいき通信」では、「わくさん」として、様々な質問に答えられている天理教一筋分教会長 西村和久先生より「陽気ぐらしへの道」というテーマでご講話いただきました。先生のお話を聞かせていただき、自分にもできる小さな行動を積み重ねて行こう！という勇気を頂きました。

当日は、ソーシャルディスタンスをとって、神殿、会議室、控室、育成室、4階講堂の五会場を設けさせていただきました。参加者は大人269名、子ども15名でした。



支部長挨拶

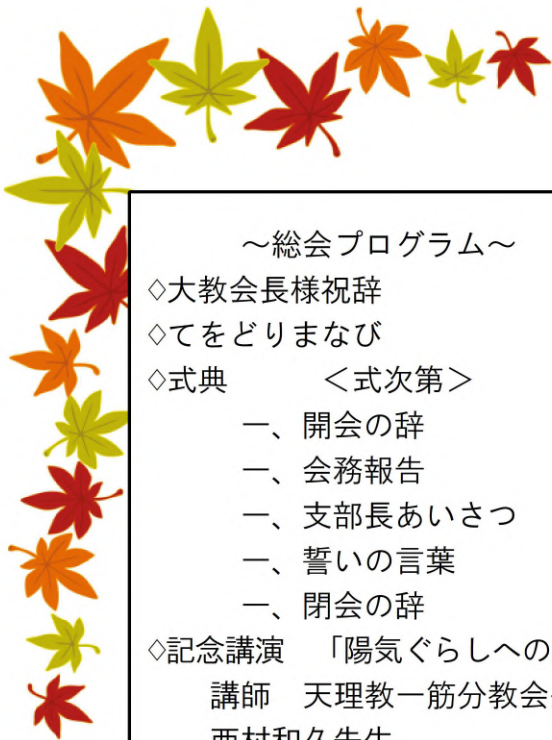


誓いの言葉  
戒場委員部・坂本みさ子(下段左)

てをどりまなびを真剣につとめました







～総会プログラム～

- ◇大教会長様祝辞
- ◇てをどりまなび
- ◇式典           <式次第>
  - 一、開会の辞
  - 一、会務報告
  - 一、支部長あいさつ
  - 一、誓いの言葉
  - 一、閉会の辞
- ◇記念講演 「陽気ぐらしへの道」
  - 講師 天理教一筋分教会長 西村和久先生
  - (事情部講師・基礎講座講師)
- ◇式典後、お弁当配布にて解散

神殿会場にて



感染対策としてロビーで検温、アルコール消毒



前支部長様、前委員長さん  
久しぶりの再会



記念講演・  
西村和久先生

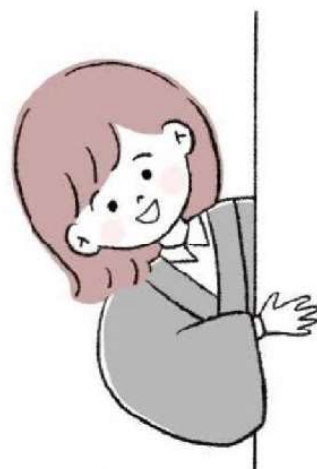


新委員部長の紹介  
十津川委員部・辻花子(右)  
旭津委員部・岩崎友輝恵(左)

お弁当配布ひのきしん  
女子青年大活躍!



# 第30回女子青年大会 ご案内



## 大会テーマ

教えを学び 教祖にお喜びいただける日々を  
～ 感謝の心をおぢばにつなごう～

### 【スケジュール】

- 8:00 大教会集合・受付
- 8:45 出発
- 9:15 南支所合流
- 10:00 式典参加
- 11:00 ひのきしん・おつとめ
- 12:30 大教会にて支部のつどい
- 15:00 解散予定

## 式典

11月27日(日) 午前10時  
御本部中庭

真柱様・婦人会長様の女子青年に向けてのお言葉を直々に聞かせて頂ける貴重な機会です。女子青年のみならず、皆と一緒に  
おぢばに帰らせて頂きましょう。

## ひのきしん

日頃の感謝の思いをおぢばにつなごうとの思いから、御本部西境内地にてひのきしんをさせていただきます。

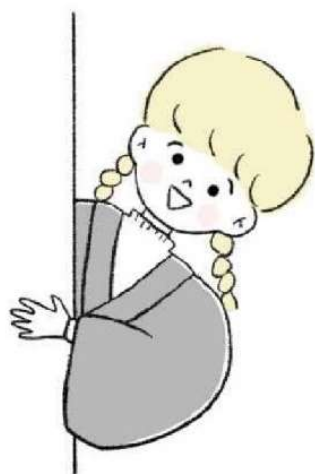
## 支部のつどい

大教会にて、昼食・お楽しみ行事をさせていただきます、皆で親睦を深める時間とできればと思います。

【参加費】500円

【持ち物】ハッピー・筆記用具・体調管理表

【申込締切】11月15日 女子青年係まで





# 十二月例会案内

日時 十二月五日（月） 午前十時  
 場所 旭日大教会  
 内容 教祖祭  
 お願いごとめ  
 よろづよ八首  
 大教会ひのきしん  
 お弁当配布



※ 社会状況により変更になる場合がございます。

## 十二月例会役割

扨者	関 薫	吉田 せつ
賛者	奥村 はる恵	岩崎 千鶴
指図方	辻 左知子	



### 表紙絵によせて

お馴染みの童謡『紅葉』です。秋のうたです。ぐっと朝晩が冷えて、昼間、太陽の当たるところは暖かく感じますが、ちょっと日陰に入ると少しも居られません。秋の山が紅葉するさまは「山粧う（やまよそおう）」といわれ、紅葉狩りなどで楽しめます。季語つながりと言えば、他にも春は「山笑う（やまわらう）」、夏は「山滴る（やましたたる）」、冬は「山眠る（やまねむる）」になります。童謡と共に日本語の美しさを改めて実感しました。

## 女子青年例会案内

日時 11月20日（日） 10時より  
 場所 旭日大教会  
 内容 女子青年大会準備

※ 社会状況により変更になる場合がございます。  
 webブックレット『Blossom-ite-no.18』を配信しました。

女子青年大会については、11ページをご参照下さい。



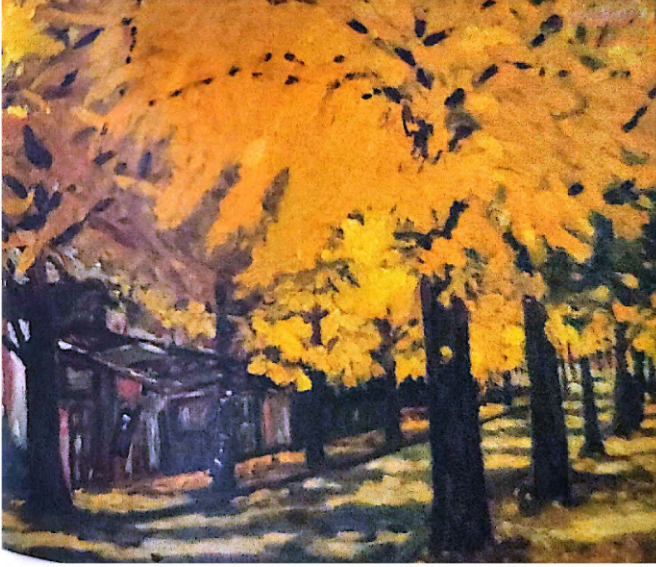
# 定めた心

「一度定めた心は生涯という。

何かの事情もよう聞き分け。

いつくまでも変わらぬよう。」

(おさしづ 明治22年11月9日)



発行日 令和四年十一月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町二二八  
天理教婦人会旭日支部